

あしっ 育成だより 6

立教 181 年 4 月 16 日発行
編集 / 芦津大教会育成部

特集 ①わかぎの集い—あしっスプリングフェスタ ②第 2 回教会長子弟育成者研修会

《親のことば》

長い目で見つめ じっくりと

途中で匙を投げることなく、長い目で物事の成り行きを見つめ、生活に密着してじっくりと人を育てられた教祖のひながたは、人を育てるうえの尊い手本なのであります。わが子は当然のこと、にをいがけやおたすけによって授かった人が、信仰の喜びを感じ、いつの日にか立派に信念を持ってひながたをたどれるようになるまで、蔭になり日なたになって心を砕いて修理肥を施し、落ちこぼれのないように丹精して育てることは、道が末代までも続くご守護を頂くための欠かせない大切な仕事なのであります。

(立教 178 年「天理教婦人会第 97 回総会」における真柱様お言葉より)



未来のようぼくたちが 大教会で躍動！



3月26日から31日までを、春の若年層育成期間「スプリングフェスタ」として、育成部と婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会らが力を合わせ、若者たちの育成に取り組んでいます。この期間中、「春の学生おぢばがえり」「わかぎの集い」「少年会芦津団総会」などの行事を通して、多くの子供や学生がお道の教えに触れ、仲間を増やし、喜びや勇み心をもって地元へと帰っていきました。今号では、特に「わかぎの集い」にスポットを当て、詳細をお伝えします。

41 名の中学生が参加

「わかぎの集い」は、少年会を巣立つ15歳を含む、中学生が対象で、少年会から婦人会女子青年、青年会、学生会へとスムーズに進めるよう、各会の方とのつながりを作る貴重な機会にもなります。

また、お道を通る友人、仲間の存在は、時に親や兄弟姉妹以上に心強い存在となることもあります。芦津につながる仲間を

増やし、絆を深めていくことも、今後の信仰生活の上で大切なことでしょう。

こうした思いから、少年会総会当日まで、大教会を会場に2泊3日の練成会を開催してきました。今年は例年に比べて参加

者が多く、41名の中学生が参加しました。その内の17名が、教会長・在籍者の子弟。「教会長子弟育成プロジェクト」の思いに沿って、教会長が子弟を積極的に、この集いに送り出してくださいました。



ジュニアスタッフ

集いでは、高校生・大学生がつとめる「ジュニアスタッフ」の役割が大変重要です。ジュニアスタッフは、班に付いて行動を共にする班付スタッフ、進行係をつとめるスタッフ、裏方で準備片付けをするスタッフなどに分かれ、それぞれが連携して子供たちを導きます。彼らは、

ほぼ全員が「わかぎの集い」の卒業生。自分たちがしてもらったように、不安いっぱいの中學生たちに温かく接します。

年が近いジュニアスタッフは、

中学生にとって、「頼れるお兄さん、お姉さん」という親しみやすい存在。「来年はスタッフで参加したい」という感想もよく聞かれます。



わかぎの集いのアンケートより

- ・去年仲良くなった友達と再会できて、とても楽しく過ごせた。来年も参加して楽しみたい。(中2女子)
- ・今度はスタッフとして、わかぎにお手本を見せることができるようになりたい。(中3男子)
- ・弟がいるので、この楽しさを伝えて、わかぎの集いに連れてきたいと思います。(中3女子)
- ・集いがおわってから、ひのきしんを進んでいきたいと思います。(中3男子)

- ・おつとめ練習で、初めて細かいところまで教えていただき、よくわかりました。(中1女子)
- ・班で協力しないとうまくいかないことが多かったので、積極的にコミュニケーションをとりました。おかげで楽しく過ごせました。(中3男子)
- ・全然知らない人とも仲良くなれた。(中3男子)
- ・仲良くなった子が、来年も来ると言っていたので、私も来たいと思います。(中2女子)

充実したおつとめ練習

昨年より、わかぎの集い参加者で、少年会総会の座りづとめを勤めることになりました。今年も初日、2日目におつとめ練習の時間を取りました。

初日は、まず「おつとめの大切さ」の話を聞いてから、総会

で勤める役割ごとに練習。その後、全員で本番さながらの練習をしました。

2日目は、祭儀式や八足係に当たっている人は、足の運び方を確認。女鳴物も、婦人会の奥様から、細かい部分まで指導を頂きました。最後に全員で練習。しっかりと心を合わせることを

意識しました。

また、朝夕のおつとめまなびでも、交替で鳴物を勤めました。



春の学生おぢばがえり



今年も「春学」に向け、芦津学生会（山田元喜委員長）は26日から直属隊を編成。前夜祭や直属アワーの準備に励みました。

春学の期間中、芦津詰所に宿泊していた北海道教区学生会との交流会や、式典後の直属アワーを通して、たくさんの仲間に出会えました。学生たちは、「こんなにもたくさん、お道を通る仲間がいるんだ」という心強さを、おぢばで得ることができたでしょう。喜びと勇み心を胸に、充実した時間を過ごした学生たちの、今後の活躍が期待されます。

第48回少年会芦津団総会



少年会芦津団（竹内義忠団長）は31日に総会を開催。「帰ってきたすべての子供たちに楽しんでもらいたい」との思いで、早くから準備を進めてきました。

総会当日は、全国各地から、この日を楽しみにしていた約450名の子供たちが大教会に集い、おつとめを勤め、式典に参加しました。午後からは模擬店やゲームコーナー、ステージなどのお楽しみ行事で、楽しい時間を過ごしました。今年は、幼児も楽しめるよう、保護者と一緒に遊べる「めばえひろば」を設置しました。

「教えを伝えよう」という強い意識を



具体的な動きにつなげる

昨年よりスタートした「教会長子弟育成プロジェクト」。昨年7月までに、各直属教会で「3力年の取り組み」を計画していただきましたが、未提出も含め、具体的な動きにまで取り組めていない教会もあるのが実情です。

今回の研修会では、具体的な

情報を提供することで、実際の活動につなげてもらうことを目指して企画しました。同時に、育成者自らの信仰姿勢を見つめ直し、「子弟育成のために、今自分は何ができるか、何をしなければならぬか」をそれぞれが認識し、行動に移すことを目指しました。

育成する側の意識

研修会では、まず大教会長様がお話。特に強調されたのは、「育成する側の意識」でした。大教会長様は、逸話篇 90「一代より二代」のお話から、「神様はなあ、

『親にいんねんつけて、子の出て来るのを、神が待ち受けている。』と、仰っしゃりますね。それで、一代より二代、二代より三代と理が深くなるね。理が深くなって、末代の理になるのやで。」との教祖のお言葉を引かれ、「親がたすけ一条に通ってれば、理は深くなっていく。だからこそ教会は皆、二代、三代と子弟に道をつないでいかねばならない」と話されました。その上で、「子弟一人ひとりに信仰の喜びを伝えるには、育成する側がそれを伝える強い気持ちを持つことが大切」とお示しく下さいました。



●管内高校入試前日説明会

事前の不安が少しでもなくなるように

2月から3月は受験シーズン。天理高校、教校学園高校の入試前日、詰所で説明会を行いました。この説明会は、当日の注意すべきことを事前に伝えることで、受験生と保護者が感じている不安を少しでも取り除くことができれば、という思いから、昨年より始めたものです。芦津大教会所属の各高校の先生にもご協力いただき、受験時に心すべきこと、面接時の注意事項、おてふり練習などを行いました。

また詰所では、受験当日のお弁当や夜食の準備、雨具の貸し出し、学校までの送迎も行っています。

天理高校1部・2部、教校学園高校の入試前日、受験生と保護者を集め、詰所で説明会を実施しました。





今、何をすべきか

続いて、直属教会育成責任者、直属教会長夫人、若手在籍者、担当者など、同じ立場の者同士が班になり、12班でねりあい。

まずはシートを使って、自分の子弟に「こうなってほしい」という親の希望や夢を、教祖140年祭までの8年間、1年ごとにできるだけ具体的に書き出してもらいました。これは自分の願いや希望を文字にし、整理することが目的です。

休憩を挟んでねりあい2。育成部が作成した、自分自身の姿

や子弟に対する姿勢を確認するための「ミラーシート」を使用して、自分の現状を見つめ直しました。その上で、ねりあい1で出した夢を実現するために、「今、自分は何かができるのか、何をしなければならないのか」を考える時間としました。ここでは育成者自身の心や行動に矢印を向け、自分がすべきことを実行するよう促しました。

終講にあたり、山田道弘育成部長が、大教会の取り組みについて細かに説明。芦津の将来を担う人材育成は、私たちにかかっていることを強調し、まずは育

成者自身の成人が、子弟育成につながることを、そしてそれぞれが子弟育成の上にも「日々プラスワン」を実行するようお願いしました。

参加者からは「ミラーシートで自分を振り返ることができてよかった」「まず自分のできることから始めたい」などの声が聞かれました。



参加者は、直属教会育成責任者（直属教会長夫妻）36名、直属教会長後継者夫妻11名、大教会在籍者6名、直属教会担当者21名の計74名でした。

●学生生徒修養会高校卒業生コース

長い期間あけずに 学生の丹精を

このコースは、高校卒業生が進学や就職などそれぞれの道へと進む時期に、親神様の御教え、教祖のひながたを再確認し、同世代のつながりを深めるために開設されました。親里管内の高校を卒業して進学しない人にとっては、これが学修に参加できる唯一の機会となります。また、進学する人にとっても、翌年3月の大学の部までかなり長い期間があいてしまうので、その間の丹精に参加を促しています。

受講生たちは、グループタイム、感話などを通して、3日間でたくさんの喜びに気づくことができました。

3年前よりご本部で開設された学修の「高校卒業生コース」。今年は芦津から8名が参加しました。





5月6日⑧

学生会

管内学生親睦会・新入生歓迎会

- 場所 芦津詰所
- 対象 芦津につながる管内高校、大学、専門学校生
- 内容 大教会長様お話、青年会・女子青年の時間、詰所の利用についての説明、会食など
- 参加費 無料



5月27日⑧

少年会

第5回少年会ドッジボール大会

- 場所 天理大学第1体育館
- 申込締切 5月23日
- 1チーム8名以上（小学校低学年の部、小学校高学年の部、中学生の部の3部門）



5月23日⑨

少年会

縦の伝道講習会

- 場所 芦津大教会
5月月次祭 神殿講話
- 講師 少年会本部委員 上村求道先生
- 趣旨 縦の伝道の理念と少年会活動の意義、活動方針の徹底を図る
- 受講対象 各隊育成会長、育成会員



6月23日⑩

学担

学生層育成者講習会

- 場所 芦津大教会
- 講師 本部学生担当委員会委員 富松基成先生
- 趣旨 教会内の育成体制の強化を図り、学生一人ひとりへの幅広い声かけを目指す
- 対象 教会長夫妻、各部各会担当者、学生層育成に携わる方

CLOSE UP!

ファミリーおつとめの集いで教会を賑やかに！

POINT 近隣の未信の方が子供連れで参加

本津分教会（梶川芳男会長・大阪市西区）は、3月25日に19回目の「ファミリーおつとめの集い」を開催、少年会員17名、育成会員17名の計34名が参加しました。

集いを始めたきっかけは、少年会員育成にあたり、親子が必ず教会に参拝する機会を作ろうと、梶川会長が企画。「少年会員1人だけ、という時もありましたが、続けていくうちに増え、今では育成会員も共に成人する場になっていると感じます」。現在は、春に「ファミリーの集い」、秋に「秋の集い」を開催。「近隣の方々にも認知され、未信のご家族が参加してくださったり、初参拝をしてもらえる良い機会になっています。参加者の中から、大教会の少年会総会やこどもおちばがえりの参加も増えてきています」。



①わかぎの集い—あしつスプリングフェスタ ②第2回教会長子弟育成者研修会

あしつ **育成だより** **6**

立教181年4月16日発行
編集 / 天理教芦津大教会育成部